

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372801037		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム康寿苑		
所在地	熊本県上益城郡嘉島町上六嘉2268		
自己評価作成日	平成24年2月4日	評価結果市町村受理日	平成24年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成 24年 3月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手足の守り神として有名な足手荒神のすぐ隣に位置し、小学校や住宅地の中にあり、自然豊かな中で大変恵まれた環境にあります。また、敷地内にある地域のえんがわ「どぎゃんね」も数多くの住民の方に利用していただき、その利用者との交流も楽しみのひとつです。また医療面においても、協力病院が近隣にあり緊急時等においてもすばやい対応が可能です。そのことが、現在利用していただいている利用者様、家族様の安心にも繋がっています。食事は、一緒に考えたり、作ったと、その季節にあった旬のものの提供するよう心がけています。地域密着事業として地域の皆様との交流を図り、お互いに支えあっていけるような関係作りを今後も築いていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所の敷地内には、地域の縁側「どぎゃんね」という建物があります。そこは、事業所が地域の方々開放しているもので、住民の交流の場ともなっています。「どぎゃんね」を利用する方々は事業所に声をかけ、入居者にも声を掛けています。地域とのつながりを実践しているいい例だと思います。その他にも認知症専門医の受診支援を積極的に行ない、原因をつきとめて適格なケアをしようと取り組んでいます。また、病院から処方されるいろいろな薬を調整して服用させ、副作用の低減にも取り組んでいます。さらには上益城郡内で考案された、下肢筋力の低下を防止するための“なるなる体操”も取り入れ、自立支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	どういったケアを目指すのかを全スタッフで話し合い、文字にして、それを事業所の理念として実践している。共有は朝礼時に唱和している。	利用者本位～常に相手の立場になって～という理念を玄関ホールに掲示している。理念の共有と実践については、毎日の朝礼と月1回行なわれる会議の中で時間を設けて、再確認するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事には老人会や地域へ呼びかけ、参加していただき、一緒に盛り上げてもらう。そのようなことをきっかけにした関係作りを行っている。	事業所として町内会にも入会しており、敬老会や地区の新年会等にも参加し、交流を深めている。また法人が農園を所有していることもあり、近隣住民の方々とは日常的に野菜のやり取りや会話が行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者教室の開催や老人会へスタッフが参加して、介護に関する相談会や勉強会等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し、利用者の状態や提供サービスの報告、行事や勉強会の報告等行っている。活発に意見、要望も出ている。	外部からのメンバーとして、地域包括支援センター職員、町や地区それぞれの老人会長、民生委員、利用者の家族が出席している。内部からは施設長、利用者本人、職員が出席している。会議は事業所からの報告にとどまらず、参加者からも有意義な意見や要望も出ている。また地域の情報の収集の場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居に際して相談や報告を担当者に行っている。また、運営会議の資料も提出している。	町担当者の運営推進会議への出席はないが、内容は担当者にも提出している。また、ケアプランの内容確認やチェックでは、町の保健師と綿密に連絡を取り、親身な指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通し、常にスタッフが意識するよう努めている。もちろん、日中は玄関等の施錠は行っていない。	事業所では、身体拘束に関するマニュアルを整備している。法人としても、年1回年度始めに勉強会を行なっている。また、より身近かに発生した事例として、新聞記事を資料に用い、内部勉強会を行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞等の記事や、県からの冊子を活用して勉強会等、日頃より話合っている。		

事業所名:グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加し、その内容をフィードバックしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分に説明を行っている。不安や疑問点については理解を得るまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、施設長自ら意見を聞いて、要望等反映させている。また、日頃からのコミュニケーションも大事にしている。	年1回は家族会を開き、意見や要望を聞く機会を設けている。また、直接言いにくいことも考慮し、第三者苦情処理機関のポスターも掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とスタッフの距離感を大事にし、常に話しやすい環境作りを心がけている。日頃からのコミュニケーションも大事にしている。	日頃から意見や提案の出しやすい環境作りに取り組んでいるが、合わせて報酬制度も整えており、一人でも多くの職員からの気付きやアイデアを募集している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長、管理者で年2回話し合いを行い、目標を明確にして、それを給与等の待遇面に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の目標を達成できるよう外部研修への周知や事業所内での研修を工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡内での研修会に参加し、相談や情報の交換や他施設からの実習の受け入れを行い、お互いの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話から情報を収集し、その情報をスタッフと共有し、同じケアが提供でき、安心に繋がるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を傾聴し、不安等を理解し一緒に解決できるようにサービス内容の説明を納得するまで行っている。また、その他の介護保険サービスについても説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、当事業所だけではなく、法人全体のサービスや、そのたの介護保険サービスの利用も視野に入れ、話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「自立支援」を基本に考え残存機能の発見等、日頃より心がけて、参加を促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できること(病院受診等)は家族に依頼するな等ケアに参加してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各老人会へ慰問の依頼や知人への面会を依頼する等し、人間関係が途切れないよう努めている。また、昔から利用している床屋へでかけることもある。	現在、趣味や習い事などを通じて馴染みの人や場との関係を続けている利用者はおられないが、老人会や知人には、面会をお願いし、人間関係が途切れないようにしている。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の座席の位置等にも注意をし、それぞれが気持ちよく過ごせるような環境作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約が終了しても相談や支援を行い、利用して良かったと思ってもらえるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人からの話を聞き、今までの生活をイメージして、できる限り今までの生活パターンに近づくことができるよう心がけている。	まずは、本人や家族からの聞き取りを行ない、今までの生活パターンをイメージし、支援するようにしている。また、それぞれの職員が「気付きメモ」を用い、困った事や利用者の最近の傾向等を書き留め、思いや意向の把握につながるような取り組みを行なっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、また可能な限りの知人からも情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活の中で、できることや本人が好まれることを把握し、ケアに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態や希望、家族の希望を把握し、計画に反映させている。月1回はスタッフ間でのモニタリングも行っている。	担当者会議を開き、利用者本人の状態や希望、また家族の要望を把握した上で、本人本位の自立を目指した介護計画になるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録の記入、それ以外に申し送りノートを作成し情報を共有しケアに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、当法人内の他部署と連携し、必要なサービス提供ができるよう努めている。		

事業所名:グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人がこれまでに関わってきた人たちと情報交換協力してもらおう等し活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院だけではなく、本人がこれまで関係を築いてきた医師との情報交換も含め支援を行っている。	基本的には、本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。近くに協力病院があり、夜間往診も可能なので、今はほとんどの利用者が協力病院をかかりつけ医としている。また、認知症の専門医の受診支援にも力を入れ、利用者にあった支援が出来るように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携もできており、体調の変化にも早めの対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から主治医、看護師との連携を図り、関係作りに努め些細なことでも、報告、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の思いを十分に理解して、望まれる場合は家族と共に支えていきたい。	この事業所では、重度化の目安として経口摂取をあげている。経口摂取が難しくなれば、協力病院や家族と十分話し合い、その後の対応を決めるようにしている。ただ、今のところ、看取りは行なっておらず、研究中とのことである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会において、救急法の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回程火災訓練を実施し、スタッフの意識づけも行っている。運営会議においても報告し、共に考えている。	年2回の火災訓練は消防署の指導のもと、ともに夜間を想定して行なっている。設備業者にも応援を求め、水消火器を使用し、初期消火の訓練にも力を入れている。また毎回ではないが、地域住民の参加も実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や入浴介助において十分な声かけや配慮をするよう、常に心がけ、会議等についても話合っている。	接遇に関するマニュアルも整備し、必要に応じて利用している。また、法人に勉強委員会があり、年に1回はケアのあり方等、総合的なスキルアップのための勉強会を行なっている。個人情報の取り扱いについては、契約時に説明の上、同意書を取り交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の趣味等を把握し、こちらから働きかけをして意欲の向上に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事時間等本人の時間に合わせたケアが提供できるよう、家族からも情報を得ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、服装は本人に聞きながら支援をしている。また、地域の美容院からも訪問してもらい、整髪してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い出しや調理、後片付け等できるだけ一緒に行い、参加をしてもらっている。また、嗜好にもできるだけ対応している。	食事が楽しく出来るように、能力に合わせて買い出し、調理、後片付け等を一緒に行なっている。その他、口腔体操も取り入れ、誤嚥の予防にも取り組んでいる。またトロミをつけたり、きざみ食等の支援も行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や食事量、形態に合わせ提供し、必要に応じて水分量の把握、確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアもそれぞれの方法、工夫にて取り組んでいる。		

事業所名:グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、それに合わせトイレ誘導等も工夫している。会議等においても、それぞれが実践したこと等話し合っている。	現在、おむつを使用している利用者はおられない。排泄チェック表をつけており、日中は布パンツとパット、夜間は紙パンツで過ごしている。排泄パターン、特に個々の細かいサインには気を配り、トイレでの排泄を支援している。このところ、紙パンツの使用量が減るなど、いい傾向にある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食物繊維等で予防している。また、医師にも相談し場合によっては内服薬にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思を尊重し、入りたい時に入浴できるように対応している。もちろん個別で本人のペースに合わせて入浴を行っている。	ペース的には2日に1回の入浴支援となっている。時間は14:30分～16:00位を予定している。利用者の皆さんは入浴が好きとことで、しょうぶ湯やゆず湯など、恒例の行事を楽しみにされているようである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調整も本人の希望を聞く等し、心地よい環境作りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに処方箋をはさみ、常に全スタッフが確認、把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食器の片付け等、自分の仕事と認識し、日々の日課にされている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事を計画する段階で利用者にも参加してもらい、希望を聞き反映させている。また、家族にも同行を依頼し、協力してもらっている。	年間の外出計画は、利用者の希望を取り入れて作成している。壁面にはいい表情のスナップ写真がはられていた。日常的な外出となると、好きな人、あまり好きではない人とおられるようである。日光浴や花壇の手入れ、散歩など戸外への支援にも積極的に取り組もうとしている。	

事業所名:グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的にも外出時等においても、自由に使用できる環境である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通常の連絡はもちろん、手紙等に関する毎月声をかけ郵送の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールには家庭的で親しみやすい雰囲気を出すために、季節の花や観葉植物を設置している。ホールからの景観にも工夫している。また、ひな人形やこいのぼり他季節を感じる飾りつけも行っている。	共用空間は南向きにあり、大きな窓から春の陽光がふりそそぎ、居ながらにして梅の花風吹きが見られるなど、自然の移ろいを見る事ができます。とても恵まれた暖かい空間となっております。また、廊下には、外出時のスナップ写真や利用者手作りの作品が飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの場所、好きなところでくつろぐことができるよう、ソファの位置にも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用しているソファ等を居室に置き、少しでも安心感やくつろぐことができるよう心がけている。	調度品や収納家具なども昔から使用してきた、使い慣れたものという印象でした。中には仏壇をお持ちの利用者がおられましたし、心地よく過ごせる配慮が感じられました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	昔から使用しているソファ等を居室に置き、少しでも安心感やくつろぐことができるよう心がけている。		